

化粧品と香水:「フランス製」が世界市場を率いる

2008年7月15日 —化粧品・香水業界の全世界での売上高は現在、1,700億ドルと推定されており(2007年5月 Eurostat 調べ)、ヨーロッパはそのうちの約630億ユーロを占める最大の市場である。世界で認められ、高く評価されている「フランス製」という肩書のおかげで、フランス市場は世界の化粧品市場を率い、トレンドを生み出している。フランスでの売上高は40年間連続して増加しており、2006年には65億4700万ユーロに達し、過去最高を記録した(FIPAR)。

世界的に有名なフランス企業としては、米 P&G や英・オランダのユニリーバを抜いて首位に立つロレアル、シャネル、LVMH、イヴ・ロシェ、ピエール フェーブル、クラランス、YSL-PPR などが挙げられる。またサノフィ・アベンティスやジョンソン・エンド・ジョンソンといった、大きな化粧品部門をもつ製薬企業グループも業界で主要な役割を果たしており、美の追求と公衆衛生に対するニーズを満たしてきた。

安全要件と顧客の要望に一貫して対応するため、この業界では製品製造とマーケティングに関し、絶え間ない技術革新と研究開発投資が不可欠である。美とファッションの都であるパリを拠点としてビジネスが行われているが、地方の産業クラスターにも大手メーカーが集積している。本業界では2つの産業クラスター、プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方の **PASS** (Parfum, Arômes, Senteurs et Saveurs —香水、アロマ、芳香、フレーバー)、サントル、ノルマンディ地方の **Cosmetic Valley** (Sciences de la Beauté et du bien être —美と健康の科学)が存在する。

資生堂やバイヤスドルフ、Henkel、Coty Inc.、Puig、Pacific Europe など代表的な外国企業グループはフランスで強力な存在感を示しており、試験市場にもなる活気溢れる市場の恩恵を受けている。2007年の対仏投資庁調査によれば、大規模な外国投資プロジェクトが多数成功をおさめている。たとえば、Pacific Chemicals Corp(韓国)は2002年にシャルトルで香水工場を立ち上げ、化粧品業界向けの原料を専門とする米 Kobo Products Inc.はオート＝ガロンヌ地方で成長を続けている。また、バイオ化粧品部門トップの Natura(ブラジル)は化粧品向けの革新的な技術開発のため、先端研究センターを立ち上げた。

香水・化粧品業界全体はフランス経済の影響を強く受けており、アロマと香水を専門に手掛ける日本の高砂香料工業や、専門流通部門では香港のハチソン・ワンポア・グループ(Hutchison Whampoa group)が買収したマリオノー(Marionnaud)など、ボトルの製造やアロマ・芳香の製造といった関連部門における様々な企業をも引きつけている。

「フランス政府は研究活動を積極的に支援しており、初年度に研究開発費用の50%を還付するという、欧州で最高レベルの税額控除制度を導入しています。2006年度予算は14億ユーロ超でしたが、2007年に導入された改革を受け、2008年には約20億ユーロにまで増額されました」と対仏投資庁長官フィリップ・フェーブルは述べている。

対仏投資庁(略称 AFII)

フランスへの国際投資誘致、進出企業向け支援を担当する国の機関。フランス国内および北米、欧州、アジア各国におかれた在外事務所を結ぶネットワークで機能している。詳細情報はウェブサイトをご参照ください
<http://www.investinfrance.org/Japan/> (AFII ホームページ)

詳細については、以下へお問い合わせ下さい。

在日フランス大使館 対仏投資庁 広報担当 ジェレミ・エルヴェ(Jérémy HERVÉ)

TEL : 03-5733-8208 (直通)

フランス大使館産業技術広報センター TEL : 03-3435-7455